

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295100214		
法人名	株式会社ワムタック		
事業所名	コンフォートウェル焼津		
所在地	静岡県焼津市西小川2-9-1		
自己評価作成日	平成 30年 7 月 10 日	評価結果市町村受理日	平成 30年 11月 5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	平成 30年 7月 31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コンフォートウェル焼津は立地条件が大変良く、施設東隣に公園があります。リビングの大きな窓からは朝日が入り、木々の緑や空・雲が見え、日々の暮らしが心安らぎ、豊かで穏やかな毎日を送ることができます。職員も優しい気持ちでケアに取り組むことができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所して1年半を迎えて、職員は利用者一人ひとりの気持ちを受け入れて支援しています。職員のヒヤリングからも利用者1対1で時間をかけて支援が出来ていることが確認されました。さらに職員間の人間関係は大変良いと聞いています。また事業所としては、地域に根差した活動を心がけています。事業所の隣には公園があり地域の人たちを常に大きな窓から見ることが出来、声も聞こえてくるなど、環境は恵まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常々職員で理念の唱和を行い、浸透させている。	法人の理念を基にしながら、行動指針を設定している。日々の実践につなげられるよう、文章を「見える化」し廊下等への掲示、また朝礼で唱和をしている。	グループホーム独自の指針を作成する事で、職員の意識統一を図りサービス向上に繋がる事を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練に参加し、また津波訓練では近隣の方に当施設3階に避難して頂き、協力し合っている。	地域とのつきあいは、地域の自治会の協力を得て、年3回程避難誘導等の訓練を実施している。また、近隣の幼稚園と行き来する等の交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣保育園の親睦しており、園児を招いたり又招待されたりと交流して理解を深め合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の構成員でもある、町内会長・民生委員の方々から、ヒヤリ・ハットを通して事故防止についてご意見を頂いている。	運営推進会議は、隔月の木曜日に開催している。家族に加え町内会長と民生委員が必ず参加し生活の様子や職員の人事等も報告している。また緊急時対応や感染症対策等も会議の中で検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	焼津市地域包括ケア推進課、介護保険課の職員と連絡を密に取り、ご指導を頂いている。	H29年に施設を開設し、主に災害対策や運営基準等の相談や対応について連携を図り、アドバイスを頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、定期的に施設内研修を行っている。本体でも研修を実施している。玄関の施錠は、1階の西小川の家との関係もあるが、基本的に施錠していない。	各階の出入り口は階段に近く、危険な状況もありロックをかけ対応している。「虐待防止・身体拘束廃止委員会」を設置し対応を検討している。定期的なケア会議等と合わせ身体拘束の研修を行っている。	出入り口について自由に行き来可能な環境づくりの検討を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会の職員は高齢者虐待について外部研修を受けて、施設内研修で他職員に受講内容を伝達している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだ施設内研修で取り上げたことがないため、今後研修を実施して行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。まだご意見をご記入いただいたことがないが、日頃ご家族様との連絡ノートにご要望を記入して頂いており、運営に関する内容をご記入頂ければ、反映していきたい。	運営推進会議で家族の意見を聞いている。出席できない家族には、面会時に要望を聞くようにしている。『ウェル焼津通信』を月1回家族へ発行し行事や生活の様子を情報提供することで意見を出しやすくしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回リーダー会議、全体会議を行い、毎回ほぼ全員の職員が参加し、その都度意見や提案を聞く機会としている。	月1回職員会議(ユニット会議)が開催されている。施設長ほか勤務者以外の職員は全員が参加して行われている。スタッフ各自が意見を自由に提案しそれを管理者が集約して方針を決めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与の査定基準を設けている。 現在「働きやすい職場作り」を法人として取り組み始め、業務内容や体制等を整え出している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は週1回全施設管理者と定例会議を行い、週1回施設毎個別に管理者とミーティングを行い、管理者から施設内の報告を受けている。代表者は法人内の研修や外部研修を推奨し、トレーニングを受けることを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者の指示で、管理者は地域の交流会に参加して、ネットワーク作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者情報を職員間で共有し、入所前から心身の状態を把握し、入所後は安心して生活できるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス担当者会議を開催し、家族の要望を伺っている。また必要に応じて電話にて日常の様子を報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談の段階で、いろいろな状況や要望を聞き出して、一番適切なサービスを紹介することを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築くよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	築くよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特に施設側から連絡することはないが、訪問者や電話連絡があれば、取り次いでいる。	来訪した際は、ゆっくりと居室で過ごせるように職員が橋渡し役となり配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に心がけて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の状態や本人・家族の要望を取り入れた施設サービス計画書を作成している。	家族訪問時や本人の日々の生活よりアセスメントした要望等を設定し本人の意向に沿ったサービスを心がけている。掛川花鳥園や飛行場、ドライブ等で季節を感じられる外出を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に聞き取り、又以前の担当ケアマネと連携して把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時に聞き取り、又以前の担当ケアマネと連携して把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	実施している。	家族面談を経て作成された介護計画はユニット会議で検討されている。その後、来訪時に家族へ介護計画を説明し同意を得ている。	医療介護を含めた多職種にてモニタリング、介護計画の作成が行われるプロセスを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	クラウド型の記録を使用し、全利用者の記録等の情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベント(防災訓練や夏まつり等)に参加して、楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回内科医による定期往診を受け、24時間365日医療連携している。	ホーム入所時に、内科は事業所の協力医と契約を行う。協力医は24時間対応をしている。内科以外は、かかりつけ医へ家族が通院させている利用者もいる。歯科医は週1回の往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師を配置していないが、契約している訪問看護師や薬剤師と連携し、何かあれば電話相談を行い、必要があれば訪問してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	実施している。地域の総合病院の相談員と常々連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書に記載されており、入所時に説明している。終末期を迎えた利用者に対して事業所でできる支援を行った。	1名終末期の支援を行った。看護師は常駐していなかったが、協力医と家族が十分話し合い訪問看護を利用し24時間体制の支援を介護職員で行なった。今後も事業所が出来る限り対応し安心して最後を迎えられるように取り組む方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実施しており、施設内に掲示してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練を行い、施設内訓練や地域の防災訓練に参加している。	運営推進会議の議題にも上っている、津波を主とした訓練を地域の住民が参加している。隣接の公園が地域の避難場所となっているので、事業所とし食料や飲料水など備蓄をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV		その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修を年1回行い、職員に指導している。	月1回のミーティングに職員全員参加し、利用者の情報等プライバシーに配慮した対応方法など話し合っている。食事時間の職員の言葉かけは、本人の気持ちを大切に考えて行っていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるよう促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	心がけているが、時間で区切ってしまう時がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服を選択できる方には行ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けができる利用者はなかなかいないが、おやつ作りの時に、できる方は職員と一緒にかけ混ぜたり並べたり等簡単な作業を行っている。	メニューは利用者の好みを取り入れて、季節柄今は麺類など多くしている。テーブルの席は利用者の状況をみながら時々変えている。音楽を聴きながら楽しく食事ができるよう雰囲気づくりをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	実施している。管理栄養士が低栄養にならないよう、確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師、歯科衛生士の指導・助言を受けて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	実施している。	トイレの排泄を自分で行うことを大切にし、尿意のない利用者にも誘導に工夫しながら排泄支援を個々に支援している。トイレが分からなくなったり、失禁した時などさりげなく支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいない。 主治医、薬剤師にその都度相談して指示を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	実施していない。職員が決めている状態。 入浴拒否がある利用者は、希望のタイミングを見計らって個々にあった支援をしている。	ひとり週2回の入浴は午前中に実施している。入浴を拒否する利用者には、無理強いせず次の日に変更する。また着替えの際に入浴への誘導をしたり、ご家族の話題を出して個々に工夫をし支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	実施している。心穏やかにいられるよう、就寝前は静かな時間を過ごして頂いている。また眠れない利用者に対しては、本人の希望通り、眠くなるまで職員と一緒に話したり、塗り絵をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、薬剤師の指導のもと、用法・用量の把握はあり、内服支援しているが、薬の目的や副作用の理解はしていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の「生活歴や力を活かす」まではいっていないが、本人から聞き出したり家族に聞きながら気分転換できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「その日の希望」に沿うことはできないが、計画的に外出するようにしている。 「家族や地域の人々と協力」は一部の利用者は行っている。	事業所で計画的に外出している。日常的な外出はなかなか十分には出来ていないが、買い物に出かけた時にたい焼きを買って帰る。また気候に配慮し隣接の公園に散歩に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実施していない。 外出先で買い物の機会があれば、買う物を選んで頂き、職員が渡したお金を支払うことはある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特別できるように支援していないが、希望があれば「電話する、電話を受ける」ことは行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	実施している。 季節毎壁画作りを行い、季節感を取り入れている。	居間は明るく、利用者が手作りした日めくりカレンダーがあり、花火の壁画づくりで季節感のある居心地いいリビングにしている。トイレも数か所あり使いやすいように配慮をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファの位置等、工夫して、必要に応じて模様替えをしたり、食卓での座席替えを行う。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に持ち込み品について説明している。 帰宅願望が強い利用者は、利用者やその家族と相談しながら、使い慣れた家具や置物を持ち込んで頂き、気分が良くなるよう工夫している。	事業所で用意された家具(ベッド・タンス)もあるが、自宅で使用していた家具をそのまま持ってきている。またご家族の写真を貼り楽しい居心地のよい居室づくりを職員と取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所を示すマークを貼ったり等、理解できない利用者に対して分かりやすいように示してある。		